

# 申 一歩、前進

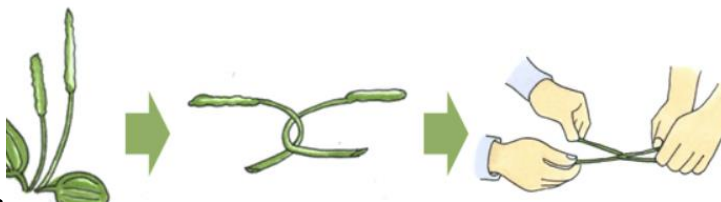
## 雑草のようにたくましく、というが

毎年、家の草刈りに悩まされる。刈っては焼くということを何度も繰り返すのだが、やればやるほど勢力を増すように感じる。本当にやっかいな存在である。

そんな雑草だが、よく例えに使われる。それは、多くの人に共通するイメージがあるからだ。その共通するイメージとは、「たくましき」だろう。かつて、プロ野球の名選手の生き方が「草魂」とか「雑草魂」と表現されて注目された。「雑草魂」の方は比較的新しく、1999年の流行語大賞にも選ばれた。

さて、たくましきは強さと結びつくが、雑草は、実は植物としては弱いらしい。それは、他の植物との生存競争に弱いということだ。弱いはずの雑草が、なぜ強く存在できるのか。

最近の子どもは経験がないかもしれないが、「雑草相撲」という遊びで使われるオオバコという雑草がある。



【雑草（オオバコ）相撲】

オオバコは、舗装されていない道路や、路肩の堅い土の部分によく生えている。これは、オオバコが弱くて他の植物が生える場所では生息できないので、他の強い植物が生えることのできないような場所、つまりよく踏まれる場所を選んで生えているのだそうだ。そのために、オオバコは、踏まれても傷つきにくいように葉が柔らかく、踏まれてちぎれないように葉の中に硬い筋を持っている。反対に、茎は、外は硬く中は柔らかいスポンジ状でしなやかな構造になっている。（この構造のために相撲に使われやすい。）さらにさらに、オオバコの種子は、雨などに濡れると粘着液を出して膨らみ、靴や動物の足、タイヤなんかについて運ばれる……。オオバコは、他の植物と違って「踏まれないとむしろ困る」植物なのである。

こうしてみると、オオバコは、「厳しい環境に耐える、強くたくましい存在」というよりも、「厳しい環境を利用する、しなやかで適応力の高い存在」という方がピッタリだ。新型コロナを始め、私たちを取り巻く環境の厳しさが目立つのは何とも寂しいことだが、雑草のようにしなやかに生きていきたいものだ。（校長：佐藤 浩二）

※参考：稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか』